

伊達市の“未来創造”に挑戦



伊達市長
須田 博行

Profile

須田博行 / すだひろゆき
昭和33年6月17日生まれ(67歳)。
伊達市出身。宇都宮大学農学部を卒業後、昭和56年に福島県庁に入庁。農林技術課長、農村計画課長、農村整備担当次長、県北農林事務所長を歴任。平成30年2月に伊達市長に就任し、令和4年に次いで3期目。趣味・特技はスキーと水泳。

就任のごあいさつ

このたび、伊達市長として3期目の市政運営を担わせていただくことになりました。改めてその責任の重さを胸に刻み、市民の皆さまの期待と信頼に応えられるよう、決意を新たにしたいところです。

これまでの2期8年間は、大型商業施設や企業の誘致、住宅団地や子育て教育施設の整備など、若者が定着するための基盤づくりに力を注いでまいりました。その取り組みの成果が着実に表れ、本市の年少人口は、県内で最も転入超過の多い自治体となるなど、子育て世代に選ばれるまちへ歩みを進めてきました。

一方で、人口減少・少子高齢化の加速により、地域の経済活動やコミュニティの維持など、さまざまな課題に直面しております。

このような中、合併20周年を迎えた今年、イオンモール伊達のオープンなど、本市を取り巻く環境が大きく変化します。

私の基本姿勢である「現場主義」をモットーに、市民の皆さまの声に耳を傾けながら、次なるステップに向けた取り組みを推進し「便利で、人に優しく、豊かさが実感できる」伊達市の未来の創造に挑戦してまいります。

便利なまち

市民生活において、地域の公共交通はとても重要です。阿武隈急行線、路線バス、デマンドタクシーなどを活用した市内全域の公共交通網の再編を進め、利便性の高い交通システムを構築してまいります。また、利便性の向上には、道路網の整備は重要です。国道道の整備促進を強く働きかけるとともに、生活道路である市道の維持管理を強化してまいります。



▲阿武隈急行線

さらには、中山間地域において、高齢者などの生活弱者が安心して買物できる環境づくりを進め、誰もが快適に暮らせるまちづくりを進めてまいります。

人に優しいまち

全ての世代が安心して暮らせる地域社会を築くためには、健康、医療、福祉、そして子育てや教育など、人に関わる施策を充実させることが重要です。市民一人一人が心身ともに健康で充実した生活を送れるよう、

歩くことを基軸とした健康づくりと健康寿命を伸ばすための「元気づくり会」の普及拡大を進めてまいります。

また、妊娠期からの切れ目ない子育て支援では、伊達市版ネウボラ事業を推進し、男女が共に子育てに参画し、仕事と育児を両立できる環境を充実してまいります。さらには、未来を担う子どもたちが安心して学校生活を送れるよう教育環境を充実してまいります。



▲元気づくり会

豊かさを感じられるまち

伊達市の基幹産業である農業は、高齢化や担い手不足が課題となっております。モモやキヌウリ、イチゴ、あんぼ柿など、伊達市の誇り高い農産物の生産拡大に向けた支援を行うとともに、これまでに

以上にトップセールスを進め、伊達市のブランドを守ってまいります。さらには、データ駆動型スマート



▲環境測定装置

農業を推進し、誰もが農業にチャレンジできる環境を整備してまいります。

商工業においては、労働不足の解消と新たに起業する人を支援するとともに、若者の定着のために最先端企業の誘致を図ってまいります。また、イオンモール伊達にアンテナショップを設置することで、伊達市の魅力を発信し、市内商店街への誘客を促進してまいります。

歴史観光においては、伊達氏梁川遺跡群の歴史公園やガイダンスセンターなどの整備を進め、地域の貴重な歴史と文化を活かした魅力ある地域づくりを進めてまいります。



▲イオンモール伊達イメージ図

この「3つのまちづくり」を実現するため、多様な知見やノウハウを有する民間事業者や地域団体などと連携し、効率的な行政運営を図るとともに、伊達市の有するポテンシャルを最大限に活用し、「市民が希望を持てる未来」の創造に挑戦してまいります。今後とも、皆さまのご支援ご協力ほど、よろしくお願い申し上げます。

市民が幸せになれる市政を

1月18日㊤に告示された市長選挙で3期目の当選をした須田博行市長は、1月26日㊤に当選証書を授与され、2月12日㊤に市役所に初登庁しました。

就任式で須田市長は「“現場主義”と“チャレンジ”を市政の方針とし、伊達市の明るい未来のためにがんばっていきたい」と述べました。

須田市長の3期目の任期は、2026年2月12日～2030年2月11日までの4年間です。

